



Cisco UCS Central 導入ガイド リリース 1.0

初版：2012年11月20日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

Cisco UCS の関連ドキュメント vii

マニュアルに関するフィードバック vii

Cisco UCS Central の概要 1

Cisco UCS Central について 1

Service Registry 3

Identifier Manager 3

Resource Manager 3

Management Controller 4

Policy Manager 4

ポリシーの解決 4

ドメイン グループ 4

グローバル並列性制御 5

ポリシー 6

 グローバル ポリシー 7

プール 8

Cisco UCS Central の前提条件 9

Cisco UCS Central 導入のシステム要件 9

Cisco UCS Central の導入でサポートされるハイパーバイザ 10

Cisco UCS Central GUI でサポートされている Web ブラウザ 11

Cisco UCS Central の導入に必要な情報 11

Cisco UCS Central の導入 13

シスコからの Cisco UCS Central ソフトウェアの取得 13

Cisco UCS Central OVA ファイルの使用 14

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルの導入	14
OVA ファイルからの Cisco UCS Central VM の復元	16
Cisco UCS Central ISO ファイルの使用	17
Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルの導入	17
VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルの導入	18
ISO ファイルからの Cisco UCS Central の再インストール	19
ISO ファイルからの Cisco UCS Central のアップグレード	20
Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト	20
HTTP を介した Cisco UCS Central GUI へのログイン	20
HTTPS を介した Cisco UCS Central GUI へのログイン	21
Cisco UCS Central GUI からのログアウト	21
Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト	21
Cisco UCS Central CLI へのログイン	21
Cisco UCS Central CLI からのログアウト	22
Cisco UCS Central の管理パスワードのリセット	22
Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録	23
Cisco UCS ドメインの登録	23
Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間でのポリシー解決	24
Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録	25
Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシーの解決の変更	27
Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除	27
Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録	28
Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシーの解決の設定	29
Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除	31



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#), [v ページ](#)
- [表記法](#), [v ページ](#)
- [Cisco UCS の関連ドキュメント](#), [vii ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック](#), [vii ページ](#)

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	用途
bold フォント	コマンド、キーワード、およびユーザが入力したテキストは、 bold フォントで示しています。
<i>italic</i> フォント	ドキュメント名、新規用語または強調する用語、値を指定するための引数は、 <i>italic</i> フォントで示しています。

表記法	用途
courier フォント	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	いずれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string と見なされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

**警告** 安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメントロードマップ

Bシリーズのすべてのマニュアルの完全なリストについては、次の URL で入手できる『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。 <http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc>

すべてのCシリーズのマニュアルの完全なリストについては、次の URL にある『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。 <http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

他のマニュアルリソース

BシリーズとCシリーズのすべてのマニュアルが含まれる ISO ファイルは、次の URL で入手できます。 <http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821> このページから、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは主要な各マニュアルのリリース後に更新されます。

マニュアルの更新通知を受信するには、 [Cisco UCS Docs on Twitter](#) をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバックフォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。



第 1 章

Cisco UCS Central の概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Central について, 1 ページ](#)
- [Service Registry, 3 ページ](#)
- [Identifier Manager, 3 ページ](#)
- [Resource Manager, 3 ページ](#)
- [Management Controller, 4 ページ](#)
- [Policy Manager, 4 ページ](#)
- [ポリシーの解決, 4 ページ](#)
- [ドメイングループ, 4 ページ](#)
- [グローバル並列性制御, 5 ページ](#)
- [ポリシー, 6 ページ](#)
- [プール, 8 ページ](#)

Cisco UCS Central について

Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) は、データセンター向けの次世代プラットフォームおよびソリューションです。Cisco UCS Manager は、Cisco UCS ドメインのビューを、論理的で、可用性が高く、エンドツーエンドの単一の管理サービスとして提供する、組み込みのデバイス管理ソフトウェアです。数百の導入済み Cisco UCS ドメインが含まれる大規模なデータセンターでは、これらの Cisco UCS ドメインのデバイス管理を統合する必要があります。

Cisco UCS Central は、すべての Cisco UCS ドメイン全体に対して共通の管理ソリューションを提供します。Cisco UCS Central ではポリシーの集中型リソースインベントリおよびリポジトリを提供します。Cisco UCS Central により、設定が簡略化され、ポリシー均一性、グローバル ID の競合解決を行い、Cisco UCS ドメインを効率的かつ一貫して管理します。

Cisco UCS Central が複数の Cisco UCS Manager セッションを介してデータセンター全体のグローバルビューを提供します。Cisco UCS Central は個々のデータセンターまたは複数のデータセンターの Cisco UCS の動作を管理できます。Cisco UCS Central ではファームウェア管理、カタログ管理、設定のバックアップおよび復元動作、モニタログ、コアファイルおよび障害の動作管理が容易になります。

Cisco UCS Central は、現在 Cisco UCS Manager でサポートされている集約管理を超えて設計されています。Cisco UCS Central には次の機能が含まれます。

- 次のような簡単で一貫した Cisco UCS の展開を提供します。
 - Cisco UCS の初期設定
 - ポリシーおよびサービス テンプレート定義
- 次のような名前空間の一貫性を確保します。
 - MAC、WWN、UUID
 - 複数の Cisco UCS の検索
- 次のようなインベントリ管理を提供します。
 - データセンターの Cisco UCS ドメイン全体の物理的および論理的な要素の集中型ビュー
 - 個々の物理的および論理的な要素のヘルス
- 次のような定期的な運用タスクを簡素化します。
 - ファームウェアの更新
 - バックアップと復元の設定
- 次のような一元化した診断を提供します。
 - 障害の集約
 - 関連と影響
 - 根本原因の分析

Cisco UCS Central は、外部サーバに置かれた 1 つの仮想マシン (VM) として導入されます。Cisco UCS Central には次のサービスが含まれます。

- Service Registry
- Policy Manager
- Operations Manager
- Resource Manager
- Identifier Manager
- Management Controller

Service Registry

Service Registry は、Identifier Manager または Operation Manager などのサービスプロバイダー、および登録された Cisco UCS ドメインからの情報を格納する、一元化された登録リポジトリを提供します。Cisco UCS ドメインを登録すると、Service Registry が他のサービスプロバイダーおよび登録済みの Cisco UCS ドメインにこのドメインに関する情報を配信します。サービス間の通信はこの情報が配信されたときに開始します。

Service Registry は、ドメイングループ構造の変更を配信する役割もあります。

Identifier Manager

Identifier Manager は、Cisco UCS ドメイン全体での UUID、MAC アドレス、WWN、IP アドレス、IQN のアドレスの自動および集中管理を提供します。次のように、Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central の両方に ID プールを作成できます。

- ローカル プールは Cisco UCS Manager で定義され、その Cisco UCS ドメインでのみ使用できます。これらのプールは、ドメインプールと呼ばれます。
- グローバル プールは、Cisco UCS Central で定義され、Cisco UCS Central に登録された Cisco UCS ドメイン間で共有できます。

Identifier Manager はプールの定義を追跡して、競合を避けるためにプールを管理できるようにします。ドメインプール ID が Cisco UCS Central に登録されている Cisco UCS ドメインから割り当てられると、Cisco UCS Manager が Identifier Manager に割り当てを報告します。ドメインプールが存在しないか、またはドメインのプールに空きがない場合、Cisco UCS Manager は Cisco UCS Central のグローバルプールから ID を要求します。

競合しているプール割り当ては、エラーとしてレポートされます。重複プールに属する未割り当ての ID は、警告としてレポートされます。

Resource Manager

Resource Manager は、Cisco UCS Central に登録されたすべての Cisco UCS ドメインについて、物理的および論理的なリソースの一元化された統合ビューを提供します。

Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録すると、Resource Manager はファブリックインターコネクト、シャーシ、FEX、ブレードサーバ、統合ラックサーバ、およびそのドメインのサービスプロファイルおよびテンプレートに関する基本的なインベントリ情報を要約し、表示します。Resource Manager は、Cisco UCS ドメイン内のリソースの利用可能なメモリ、CPU、可用性ステータスおよびヘルス ステータスのクイック ビューを提供します。このインベントリを使用して、データセンターの要件に応じて Cisco UCS ドメインをプロビジョニングすることができます。

Resource Manager で、Cisco UCS Central に登録されているすべての Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager GUI および KVM コンソールを相互起動して、Cisco UCS ドメイン内のサーバにアクセスできます。

Resource Manager は、登録された Cisco UCS ドメインからの障害の要約を示します。重大度または障害のタイプによって障害情報を表示できます。また、データセンターの障害情報に関する追加情報を 1 箇所に表示したり、または Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager GUI を相互起動して、特定の障害のコンテキスト詳細ビューを表示したりできます。

Management Controller

Management Controller は、Cisco UCS Central の仮想マシン (VM) コントローラです。設定処理は Management Controller によって実行されます。Cisco UCS Central は、operation-mgr ルートグループで解決された、ポリシーの動作を継承します。これらのポリシーは、AAA、HTTP、HTTPS、Telnet、SSH、セッション制限、日付、時刻、DNS、NTP の設定が含まれます。コアは、バックアップ、エクスポート、およびインポートなどの、Operation Manager によってトリガーされる操作を実行するのにも使用されます。

また、Management Controller は、Cisco UCS Central のテクニカルサポート情報を収集します。このデータは、すべてのインストール済みコンポーネントから収集するか、または選択したコンポーネントからだけ収集できます。

Policy Manager

Policy Manager は、すべてのポリシー、プール、テンプレートの設定に使用できる拡張 Web サーバです。これらのオブジェクトを含む組織構造は、ポリシーサーバによって所有され、管理されます。ID プール、テンプレートおよびドメイングループも、Policy Manager で定義され、続いて適切なサービスに選択的に配信されます。たとえば、ID プールは Identifier Manager に、ドメイングループは Resource Manager に配信されます。

ポリシーの解決

ポリシーの解決は、ポリシーサーバとして動作する Policy Manager でのポリシー設定の変更を解決します。ポリシーが変更されると、Cisco UCS Central は登録されている Cisco UCS ドメインに変更されたポリシーをただちに使用するように通知します。

ドメイングループ

Cisco UCS Central は、複数の Cisco UCS ドメインを管理するために、Cisco UCS ドメイングループの階層を作成します。Cisco UCS Central には、次のカテゴリのドメイングループがあります。

- **ドメイングループ**：複数の Cisco UCS ドメインが含まれているグループ。管理を単純にするために、同様の Cisco UCS ドメインを 1 個のドメイングループにグループ化できます。
- **グループ化されていないドメイン**：Cisco UCS Central に新しい Cisco UCS ドメインが登録された場合、それはグループ化されていないドメインに追加されます。任意のドメイングループにグループ化されていないドメインを割り当てることができます。

ドメイングループポリシーを作成した場合は、新しい登録された Cisco UCS ドメインがポリシーで指定された修飾子に合っていれば、それはポリシーで指定されているドメイングループの下に自動的に配置されます。それ以外の場合は、グループ化されていないドメインのカテゴリに配置されます。任意のドメイングループにこのグループ化されていないドメインを割り当てることができます。

各 Cisco UCS ドメインは、1 個のドメイングループにしか割り当てることができません。Cisco UCS ドメインのメンバーシップは、いつでも割り当てまたは再割り当てできます。ドメイングループに Cisco UCS ドメインを割り当てると、Cisco UCS ドメイン、ドメイングループに指定されたすべての管理ポリシーを自動的に継承します。

**注意**

ドメイングループに Cisco UCS ドメインを追加する前に、Cisco UCS ドメインでポリシーの解決制御をローカルに変更してください。これは、その Cisco UCS ドメインに固有のサービスプロファイルとメンテナンスのポリシーが、誤って上書きされることを防ぎます。Cisco UCS ドメインの自動検出をイネーブルにした場合でも、ローカルポリシーの解決をイネーブルにすると、誤ってポリシーが上書きされることから Cisco UCS ドメインを保護します。

登録を確認したあと、同じ動作ポリシーでドメイングループのすべてのメンバドメインを管理する場合は、Cisco UCS Manager GUI でポリシーの解決をグローバルに変更できます。

ドメインのルートグループに設定されたポリシーは、ルートの下すべてのドメイングループに適用されます。ルートグループの下各ドメイングループは、そのグループ固有のポリシーを持つことができます。ドメイングループポリシーは、メンバの Cisco UCS ドメイン内で階層的に解決されます。

ドメイングループ管理

次の特権を持つユーザは、Cisco UCS Central でドメイングループを作成し、管理できます。

- **admin 権限**：新しいドメイングループを作成し、ドメイングループにグループ化されていない Cisco UCS ドメインを割り当てます。
- **ドメイングループ管理特権**：ドメイングループを作成および管理します。ただしドメイングループにグループ化されていない Cisco UCS ドメインを割り当てることができません。

グローバル並列性制御

グローバル並列性制御により、Cisco UCS Manager または Cisco UCS Central での複数の同時並列処理を制御できるようになります。スケジューラを関連付けて、パラレルタスクを制御できるオブジェクトに対する処理をトリガーすることができます。必要に応じて、スケジューラを設定して、手動で保留中のタスクの再開を制御できます。また、ユーザ確認応答済みのスケジュールに対する並列制御の制限を無視するかまたは考慮するか選択することができます。

ポリシー

Cisco UCS Central は、登録された Cisco UCS ドメインのグローバルポリシーサーバとして動作します。リモート Cisco UCS ドメインのグローバル Cisco UCS Central ポリシーの設定には、ドメインの登録と、登録済みドメインのドメイングループへの割り当てが含まれます。登録された Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager により解決された Cisco UCS Central で、次のグローバルポリシーを定義できます。

- **ファームウェアイメージの管理**：Cisco UCS では、シスコから取得し、シスコによって認定されたファームウェアを使用して、Cisco UCS ドメインのエンドポイントをサポートします。各エンドポイントは、機能するためにファームウェアが必要な Cisco UCS ドメインのコンポーネントです。Cisco UCS ドメイン内のエンドポイントのアップグレード順序はアップグレードパスによって決まり、Cisco UCS Manager、I/O モジュール、ファブリックインターコネクタ、アダプタ上に物理的に配置されたエンドポイント、物理的にサーバ上に配置されているエンドポイントが含まれます。シスコでは、Cisco UCS コンポーネントに対するすべてのファームウェアのアップデートをイメージのバンドルで配布します。Cisco UCS のファームウェアの更新は、Cisco UCS ドメインのファブリック インターコネクタにダウンロードできます。
- **ホスト ファームウェア パッケージ**：このポリシーでは、ホスト ファームウェア パッケージ（ホスト ファームウェア パック）を構成するファームウェア バージョンのセットを指定することができます。ホスト ファームウェア パックには、サーバ用ファームウェアと、アダプタ、BIOS、ボードコントローラ、ファイバチャネルアダプタ、HBA オプション ROM、ストレージコントローラなどの、アダプタ エンドポイントが含まれます。
- **機能カタログ**：このポリシーは、調整可能なパラメータ、文字列、およびルールのセットです。Cisco UCS Manager はカタログを使用してサーバの新しく資格を持った DIMM やディスク ドライブなどの表示とコンポーネントの設定を更新します。
- **障害収集ポリシー**：障害収集ポリシーは、障害がクリアされた日時、フラッピング間隔（障害発生とクリア状態の間の時間）、および保持間隔（システムで障害が発生していた時間）など、Cisco UCS ドメインの障害のライフサイクルを制御します。
- **コア ファイルのエクスポート ポリシー**：Cisco UCS Manager は、Core File Exporter を使用して、core ファイルが発生したらすぐに TFTP を使用してネットワーク上の指定された場所にエクスポートします。この機能を使用することにより、tar ファイルをコア ファイルのコンテナと一緒にエクスポートできます。
- **Syslog ポリシー**：syslog のポリシーは、コンソール、モニタ、ファイル、リモートの宛先属性の、4 つのポリシー属性の集合です。Syslog のポリシーには属性の作成、イネーブル化、ディセーブル化、および設定が含まれます。
- **ロールベースアクセスコントロール (RBAC) とリモート認証ポリシー**：RBAC は、ユーザのロールとロケールに基づいてユーザのシステムアクセスを制限または許可する方法です。ロールによってシステム内でのユーザの権限が定義され、ロケールによってユーザがアクセス可能な組織（ドメイン）が定義されます。権限がユーザに直接割り当てられることはない

ため、個々のユーザ権限の管理では、適切なロールとロケールを割り当てるのが主な作業になります。

- **Call Home ポリシー**：Call Home では、重要なシステムポリシーに対して電子メールベースの通知が提供されます。ポケットベルサービスやXMLベースの自動化された解析アプリケーションとの互換性のために、さまざまなメッセージフォーマットが用意されています。この機能を使用して、ネットワークサポートエンジニアにポケットベルで連絡したり、ネットワークオペレーションセンターに電子メールを送信したりできます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して TAC のケースを生成できます。
- **管理インターフェイス モニタリング ポリシー**：このポリシーでは、ファブリック インターコネクットの mgmt0 イーサネット インターフェイスのモニタリング方法を定義します。Cisco UCS が管理インターフェイスの障害を検出すると、障害レポートが生成されます。設定された障害レポートの回数に達した場合、システムは管理インターフェイスが使用できないと見なし、エラーを生成します。
- **タイムゾーンおよびNTP ポリシー**：Cisco UCS Manager で正確な時間を表示できるようにするために、Cisco UCS にはドメイン固有のタイムゾーン設定およびNTPサーバが必要です。これらの両方を Cisco UCS ドメインに設定しなければ、時間は正確に表示されません。
- **簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) ポリシー**：SNMP は、アプリケーション層プロトコルであり、SNMP マネージャと SNMP エージェントとの通信に使用されるメッセージフォーマットを提供します。SNMP は、ネットワーク内のデバイスのモニタリングおよび管理に使用する標準フレームワークと共通言語を提供します。
- **機器**：Cisco UCS Central は、グローバルな電力割り当てポリシー（ポリシー方式シャーシグループ制限または手動ブレード レベル制限方式に基づく）、電源ポリシー（グリッド、n+1 または非冗長方式に基づく）、およびSELポリシーを定義する、グローバルな機器ポリシーをサポートします。電源管理および電源モジュールを、該当のクライアントのポリシー解決コントロール内でグローバルに定義するように選択している登録済みCisco UCS ドメインは、電源管理および電源装置を、Cisco UCS Central に登録されるまで延期します。
- **完全な状態のバックアップ ポリシー**：完全な状態のバックアップ ポリシーでは、システム全体のスナップショットの完全な状態のバックアップを定期的にスケジュールできます。完全な状態のバックアップは、日単位、週単位、または隔週単位で発生するように設定できます。
- **すべての設定のエクスポート ポリシー**：すべての設定のバックアップ ポリシーでは、すべてのシステムおよび論理設定の定期的なバックアップおよびエクスポートをスケジュールできます。このバックアップには、ローカル認証されたユーザのパスワードは含まれません。すべての設定のバックアップは、日単位、週単位、または隔週単位で発生するように設定できます。

グローバルポリシー

Cisco UCS Central は、登録された Cisco UCS ドメインのグローバルポリシーサーバとして動作します。リモート Cisco UCS ドメインのグローバル Cisco UCS Central ポリシーの設定には、ドメインの登録と、登録済みドメインのドメイングループへの割り当てが含まれます。

グローバルポリシーの設定には、Cisco UCS ドメインを設定し、登録済みドメインを Cisco UCS Central ドメイングループに割り当てるときに、ポリシーをグローバルまたはローカルに指定することが含まれます。グローバル設定またはローカル設定を使用するオプションは、登録時および登録後に変更できます。割り当て後、そのドメイングループで定義されたグローバルポリシーはドメイングループに割り当てられている登録済みドメインに継承されます。

登録済み Cisco UCS ドメインでグローバルとして指定されたポリシーは、そのドメインによって Cisco UCS Central から継承されます。Cisco UCS ドメインでローカルとして指定されたポリシーは、そのドメインのローカルポリシー設定に基づきます。

プール

プールは、システムで使用できる ID のコレクション、物理リソース、または論理リソースです。すべてのプールでサービスプロファイルの柔軟性が向上し、これによりシステムリソースを一元管理することができます。Cisco UCS Central で定義されたプールはグローバルプールと呼ばれ、Cisco UCS ドメイン間で共有できます。グローバルプールを使用することで、Cisco UCS Central に登録された Cisco UCS ドメイン全体で ID の一元管理が可能になります。Cisco UCS Central から Cisco UCS Manager へ ID プールを割り当てることによって、ID がどこでどのようにして使用されるたかのトラッキング、競合の防止、および競合が発生した場合の通知が可能になります。Cisco UCS Manager でローカルに定義されたプールはドメインプールと呼ばれます。



(注) 同じ ID が異なるプールに存在することがありますが、割り当てできるのは一度だけです。同じプールの 2 個のブロックが同一の ID を使用することはできません

MAC アドレスなどの ID 情報をプールして、特定のアプリケーションをホストするサーバに範囲をあらかじめ割り当てることができます。たとえば、Cisco UCS ドメイン全体のすべてのデータベースサーバを、同じ範囲の MAC アドレス、UUID、および WWN 内に設定できます。



第 2 章

Cisco UCS Central の前提条件

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Central 導入のシステム要件, 9 ページ](#)
- [Cisco UCS Central の導入でサポートされるハイパーバイザ, 10 ページ](#)
- [Cisco UCS Central GUI でサポートされている Web ブラウザ, 11 ページ](#)
- [Cisco UCS Central の導入に必要な情報, 11 ページ](#)

Cisco UCS Central 導入のシステム要件

Server Type

Cisco UCS Central は、Cisco UCS Manager で管理されていないスタンドアロンのラック サーバに導入するか、Cisco UCS ドメインに統合することを推奨します。サーバには高速データストアが必要で、できれば高速ストレージアレイからプロビジョニングされたものが推奨されます。

必要な TCP ポート

次の TCP ポートは、ファームウェア管理およびバックアップ機能を正しく動作させるために、Cisco UCS Manager と登録されている Cisco UCS ドメインの間で開いている必要があります。

- LOCKD_TCPPOINT=32803
- MOUNTD_PORT=892
- RQUOTAD_PORT=875
- STATD_PORT=32805
- NFS_PORT="nfs"(2049)
- RPC_PORT="sunrpc"(111)

サーバ要件

次の表に、Cisco UCS Central を導入するスタンドアロンのラック サーバの最小要件について説明します。

表 1: ハイパーバイザごとの *Cisco UCS Central* のシステム要件

要件	ESX の最小要件	Hyper-V の最小要件
ディスク容量	60 GB	60 GB
RAM	4 GB	4 GB
VCPU コア	1 コア	2 コア
ディスク読み取り速度	75 Mbps 以上 125 Mbps 以上が推奨される速度です。	75 Mbps 以上 125 Mbps 以上が推奨される速度です。



(注) 最小のディスク読み取り速度要件を満たさないサーバに導入した場合、Cisco UCS Central のパフォーマンスは保証されません。

Cisco UCS Central の導入中に、サーバのディスク読み取り速度が最小要件を下回った場合、インストーラにより警告メッセージが表示されますが、導入は完了できます。ただし、動作中にディスク読み取り速度が最小要件を下回った場合、Cisco UCS Central は、ディスク読み取り速度の低下の程度に応じて、次の表に示すような障害を発生します。

サーバのディスク読み取り速度	障害レベル
75 Mbps 未満	重大な障害
75 ~ 100 Mbps	メジャーな障害
100 ~ 125 Mbps	マイナーな障害
125 Mbps 以上	該当なし

Cisco UCS Central の導入でサポートされるハイパーバイザ

次の表に、Cisco UCS Central を展開できるハイパーバイザのサポートについて説明します。

表 2: サポートされるハイパーバイザおよびオペレーティング システム

ハイパーバイザ	サポートされるバージョン
Microsoft Hyper-V	Windows 2008 R2 (SP1)
VMware ESX	<ul style="list-style-type: none"> • ESX 4.0u2 • ESX 4.1u1 • ESX 5.0

Cisco UCS Central GUI でサポートされている Web ブラウザ

Cisco UCS Central GUI でサポートされている Web ブラウザは、Cisco UCS Central GUI を実行しようとしている対象のコンピュータのオペレーティング システムに依存します。

オペレーティング システム	サポート対象の Web ブラウザ
Microsoft Windows	<ul style="list-style-type: none"> • Internet Explorer 8 以上 • Firefox 3.5 以上 • Chrome 14 以上
Mac	<ul style="list-style-type: none"> • Firefox 3.5 以上 • Chrome 14 以上 • Safari 5 以降
Linux RHEL	<ul style="list-style-type: none"> • Firefox 3.5 以上 • Chrome 14 以上

Cisco UCS Central の導入に必要な情報

Cisco UCS Central を導入するときは、次の情報を提供する必要があります。

- Cisco UCS Central のスタティック IPv4 アドレス

- IPv4 Netmask
- デフォルト ゲートウェイ
- Cisco UCS Central の管理者アカウントに割り当てるパスワード
- 仮想マシン (VM) のホスト名
- 使用する場合、DNS サーバの IPv4 アドレス
- Cisco UCS Central に含めることを計画するドメインの名前 (存在する場合)
- Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録する際に必要とされるパスワードである、共有秘密



第 3 章

Cisco UCS Central の導入

この章の内容は、次のとおりです。

- シスコからの Cisco UCS Central ソフトウェアの取得, 13 ページ
- Cisco UCS Central OVA ファイルの使用, 14 ページ
- Cisco UCS Central ISO ファイルの使用, 17 ページ
- Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト, 20 ページ
- Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト, 21 ページ
- Cisco UCS Central の管理パスワードのリセット, 22 ページ

シスコからの Cisco UCS Central ソフトウェアの取得

手順

- ステップ 1 Web ブラウザで、[Cisco.com](https://www.cisco.com) にアクセスします。
- ステップ 2 [Support] の下の [All Downloads] をクリックします。
- ステップ 3 中央のペインの [Unified Computing and Servers] をクリックします。
- ステップ 4 Cisco.com のユーザ名およびパスワードの入力を求められたら、入力してログインします。
- ステップ 5 右側のペインで、目的の形式の Cisco UCS Central ソフトウェアへのリンクをクリックします。次の形式で Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードできます。

- `ucs-central.1.0.1a.ova` などの名前の OVA ファイル
- `ucs-central.1.0.1a.iso` などの名前の ISO ファイル

また、この場所から管理者パスワードのリセット ISO イメージをダウンロードできます。Cisco UCS Central プロバイダーバンドルは、Cisco UCS Central からダウンロードされ、既存の Cisco UCS Central の導入をアップグレードするために使用されます。

- ステップ 6** ソフトウェアをダウンロードするのページで、[Release Notes] リンクをクリックし、最新版のリリース ノートをダウンロードします。
- ステップ 7** ダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェアのリリースのリンクをクリックします。
- ステップ 8** 次のいずれかのボタンをクリックして、表示される指示に従います。
- [Download Now] : Cisco UCS Central ソフトウェアをすぐにダウンロードできます。
 - [Add to Cart] : 後でダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェアをカートに追加します。
- ステップ 9** プロンプトに従って、ソフトウェアのダウンロードを実行します。
- ステップ 10** Cisco UCS Central VM を展開する前にリリース ノートをお読みください。

次の作業

サポート対象のハイパーバイザに VM を展開します。

Cisco UCS Central OVA ファイルの使用

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルの導入



- (注) Cisco UCS Central VM は、初回起動時に一度だけのインストール プロセスを実行します。ログインする前に、インストールが完了するまで待ちます。

手順

- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要性に応じて、Cisco UCS Central OVA ファイルを開くか、またはサポート対象のハイパーバイザにインポートします。
VM の起動が終了するまで、次のステップは続行しないでください。
- ステップ 3** OVA ファイルのインポートの一環として Cisco UCS Central VM の電源を投入していない場合は、電源を投入します。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM のインストールプロセスの最初の部分が完了したら、VM のコンソール ウィンドウで次の質問に回答します。
- a) Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore] プロンプトで、**setup** と入力し、**Enter** を押します。
 - b) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられている IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。

この Cisco UCS Central VM 用に予約されたスタティック IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) をサポートしません。

- c) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられているネットマスクを入力し、Enter を押します。
- d) Enter the Default Gateway : プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter を押します。
- e) Enforce Strong Password (yes/no) プロンプトで、yes と入力し、Enter を押します。強力なパスワードを適用することを選択することを推奨します。この設定は、Cisco UCS Central の admin とすべてのローカルで認証されたユーザ アカウントに影響を与えます。必要に応じて、後で Cisco UCS Central でこの設定を変更できます。
- f) Enter the admin Password : プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter を押します。
- g) Confirm admin Password : プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを再入力し、Enter を押します。
- h) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central VM で使用するホスト名を入力し、Enter を押します。
- i) (任意) Enter the DNS Server IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central で使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter を押します。
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用する予定がない場合は、これを空白のままにして Enter を押します。
- j) (任意) Enter the Default Domain Name : プロンプトで、Cisco UCS Central を含めるドメインを入力し、Enter を押します。
Cisco UCS Central をドメインに含める予定がない場合は、これを空白のままにして Enter を押します。Cisco UCS Central は、localdomain という名前のデフォルト ドメインを使用します。
- k) Enter the Shared Secret : プロンプトで、Cisco UCS Central に 1 つ以上の Cisco UCS ドメインを登録する際に使用する、共有秘密 (またはパスワード) を入力し、Enter を押します。
- l) Confirm Shared Secret : プロンプトで、共有秘密を再入力し、Enter を押します。
- m) Proceed with this configuration. Please confirm[yes/no] プロンプトで、yes と入力し、Enter を押します。
これらのステップの実行時に手順を間違っと思われる場合は、no と入力し Enter を押します。その後、再び質問に回答を要求されます。

設定を続行することを確認すると、ネットワーク インターフェイスは、設定した内容で再初期化され、Cisco UCS Central には IP アドレスでアクセス可能になります。

OVA ファイルからの Cisco UCS Central VM の復元

はじめる前に

Cisco UCS Central VM の設定を復元するために使用する、Cisco UCS Central システムからのバックアップファイルが必要です。Cisco UCS Central システムをバックアップする方法については、Cisco UCS Central のコンフィギュレーションガイドを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要性に応じて、Cisco UCS Central OVA ファイルを開くか、またはサポート対象のハイパーバイザにインポートします。
VM の起動が終了するまで、次のステップは続行しないでください。
- ステップ 3** OVA ファイルのインポートの一環として Cisco UCS Central VM の電源を投入していない場合は、電源を投入します。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM のインストールプロセスの最初の部分が完了したら、VM のコンソール ウィンドウで次の質問に回答します。
- Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore] プロンプトで、restore と入力し、Enter を押します。
 - Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられている IP アドレスを入力し、Enter を押します。
 - Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられているネットマスクを入力し、Enter を押します。
 - Enter the Default Gateway : プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルトゲートウェイを入力し、Enter を押します。
 - Enter the File copy protocol [tftp/scp/ftp/sftp] : プロンプトで、Cisco UCS Central VM にバックアップファイルをコピーするために使用する、サポート対象プロトコルを入力し、Enter を押します。
 - Enter the Backup server IPv4 Address : プロンプトで、バックアップファイルが格納されているサーバに割り当てられた IP アドレスを入力し、Enter を押します。
 - Enter the Backup file path and name : プロンプトで、サーバのバックアップファイルの完全なファイルパスおよび名前を入力し、Enter を押します。
 - Enter the Username to be used for backup file transfer : プロンプトで、システムがリモートサーバにログインする際に使用するユーザ名を入力し、Enter を押します。
 - (任意) Enter the Password to be used for backup file transfer : プロンプトで、リモートサーバのユーザ名のパスワードを入力し、Enter を押します。
 - Proceed with this configuration. Please confirm [yes/no] プロンプトで、yes と入力し、Enter を押します。

これらのステップの実行時に手順を間違っただと思われる場合は、no と入力し Enter を押し、その後、再び質問に回答を要求されます。

設定を続行することを確認すると、ネットワーク インターフェイスは、設定した内容で再初期化され、Cisco UCS Central には IP アドレスでアクセス可能になります。

Cisco UCS Central ISO ファイルの使用

Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルの導入

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
名前	Cisco UCS Central の導入についての情報を含むわかりやすい名前
RAM	4096 MB 以上
ネットワーク アダプタ	Default
vCPU の数	2
仮想ドライブ	使用可能なディスク領域は 20 GB 以上 ステップ 3 では、2 番目の仮想ディスクを作成する必要があります。

ステップ 2 VM の設定では、次の作業を実行します。

- デフォルト ネットワーク アダプタを削除します。
- 新しい従来のネットワーク アダプタを作成します。
- [Apply] をクリックします。

ステップ 3 使用可能なディスク領域が 40 GB 以上の VM のために新しい仮想ドライブを作成します。

ステップ 4 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

ステップ 5 VM を起動し、コンソールに接続します。

ステップ 6 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。

Cisco UCS Central のインストーラは VM に必要な RAM とディスク スペース（ディスク 2 個、1 個は 20 GB、もう 1 個は 40 GB）があることを確認します。VM が要件を満たしている場合、インストーラはディスクをフォーマットし、そのファイルを転送して、Cisco UCS Central をインストールします。

ステップ 7 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 8 Cisco UCS Central VM をリブートします。

VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルの導入

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
設定	カスタム設定
名前	Cisco UCS Central の導入についての情報を含むわかりやすい名前
データ ストア	使用可能なディスク領域は 60GB 以上
仮想マシン タイプ	7 以降
ゲスト オペレーティング システム	Linux RHEL 5.0 (32 ビット) など、サポートされているオペレーティング システム
vCPU の数	1 または 2
メモリ	4 GB 以上
仮想アダプタ	VM ネットワークを搭載した仮想アダプタ 1 個
SCSI コントローラ	VMware 準仮想化
仮想ディスク	使用可能なディスク領域は 20 GB 以上 ステップ 2 では、2 番目の仮想ディスクを作成する必要があります。
高度なオプション	仮想デバイス ノード SCSI

- ステップ 2** [Edit Settings] では、使用可能なディスク領域が 40 GB 以上の VM のために新しいハードディスクを作成します。
- ステップ 3** [Options] メニューで、[Force BIOS Setup] をオンにしてブート オプションを変更します。
- ステップ 4** CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。
- ステップ 5** VM を起動し、コンソールに接続します。
- ステップ 6** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。
Cisco UCS Central のインストーラは VM に必要な RAM とディスク スペース（ディスク 2 個、1 個は 20 GB、もう 1 個は 40 GB）があることを確認します。VM が要件を満たしている場合、インストーラはディスクをフォーマットし、そのファイルを転送して、Cisco UCS Central をインストールします。
- ステップ 7** 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 8** Cisco UCS Central VM をリブートします。
-

ISO ファイルからの Cisco UCS Central の再インストール

この手順では、現在の実行しているバージョンの RHEL カーネルおよびすべての Cisco UCS Central のコンポーネントを再インストールします。また、すべての Cisco UCS Central のデータを保持します。

はじめる前に

この手順を実行する前に、ご使用の Cisco UCS Central データをバックアップすることを推奨します。

手順

- ステップ 1** 必要に応じて、VM をリブートし、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。
- ステップ 2** 仮想 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。
- ステップ 3** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。
- ステップ 4** Cisco UCS Central インストーラの [What Would You Like To Do?] フィールドで、[Skip Boot Loader Updating] オプション ボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
- ステップ 5** 再インストールが完了したら、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM をリブートします。
-

ISO ファイルからの Cisco UCS Central のアップグレード

この手順では、現在の実行しているバージョンの RHEL カーネルおよびすべての Cisco UCS Central のコンポーネントをアップグレードします。また、すべての Cisco UCS Central のデータを保持します。

はじめる前に

この手順を実行する前に、ご使用の Cisco UCS Central データをバックアップすることを推奨します。

手順

-
- ステップ 1 必要に応じて、VM をリブートし、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。
 - ステップ 2 仮想 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。
 - ステップ 3 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。
 - ステップ 4 Cisco UCS Central インストーラの [What Would You Like To Do?] フィールドで、[Create New Boot Loader Configuration] オプション ボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
 - ステップ 5 アップグレードが完了したら、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
 - ステップ 6 Cisco UCS Central VM をリブートします。
-

Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト

HTTP を介した Cisco UCS Central GUI へのログイン

Cisco UCS Central GUI のデフォルトの HTTP Web リンクは `http://UCSCentral_IP` です。
`UCSCentral_IP` は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。

手順

-
- ステップ 1 Web ブラウザで、Cisco UCS Central GUI Web リンクを入力するか、ブラウザでブックマークを選択します。
 - ステップ 2 起動ページで、次の手順を実行します。
 - a) ユーザ名とパスワードを入力します。
 - b) [Log In] をクリックします。
-

HTTPS を介した Cisco UCS Central GUI へのログイン

Cisco UCS Central GUI のデフォルトの HTTPS Web リンクは `https://UCSCentral_IP` です。
`UCSCentral_IP` は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。

手順

-
- ステップ 1 Web ブラウザで、Cisco UCS Central GUI Web リンクを入力するか、ブラウザでブックマークを選択します。
 - ステップ 2 起動ページで、次の手順を実行します。
 - a) ユーザ名とパスワードを入力します。
 - b) [Log In] をクリックします。
-

Cisco UCS Central GUI からのログアウト

手順

Cisco UCS Central GUI で、右上の [Log Out] をクリックします。
Cisco UCS Central GUI は即座にログアウトブラウザは起動ページに戻ります。

Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central CLI へのログイン

手順

-
- ステップ 1 SSH または Telnet クライアントでは、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスに接続します。
 - ステップ 2 `login as:` プロンプトで Cisco UCS Central のユーザ名を入力し、Enter を押します。
 - ステップ 3 `password:` プロンプトでパスワードを入力し、Enter を押します。
-

Cisco UCS Central CLI からのログアウト

終了時には、Cisco UCS Central CLI は、すべてのコミットされていないトランザクションのバッファをクリアします。

手順

-
- ステップ 1** プロンプトで、`exit` と入力し、`Enter` を押します。
- ステップ 2** ウィンドウが閉じるまでプロンプトごとに `exit` と入力し、`Enter` キーを押し続けます。
-

Cisco UCS Central の管理パスワードのリセット

手順

-
- ステップ 1** ご使用のリリースの Cisco UCS Central のパスワードリセット ISO イメージをまだ Cisco.com から取得していない場合は、取得します。
パスワードリセット ISO イメージの名前は、`ucs-central-passreset.1.0.1a.iso` などです。
- ステップ 2** 必要に応じて、VM をリブートし、CD-ROM から起動するブートオプションに変更します。
- ステップ 3** 仮想 CD/DVD ドライブにパスワードリセット ISO イメージをマウントします。
- ステップ 4** [Central Admin Password Reset] ページで、次の手順を実行します。
- a) [Admin Password] フィールドに新しい管理パスワードを入力します。
 - b) [Confirm Admin Password] フィールドに新しい管理パスワードを再入力します。
 - c) [Next] をクリックします。
- ステップ 5** パスワード変更が完了したら、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM をリブートします。
-



第 4 章

Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS ドメインの登録, 23 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間でのポリシー解決, 24 ページ](#)
- [Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録, 25 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシーの解決の変更, 27 ページ](#)
- [Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除, 27 ページ](#)
- [Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録, 28 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシーの解決の設定, 29 ページ](#)
- [Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除, 31 ページ](#)

Cisco UCS ドメインの登録

データセンターの一部またはすべての Cisco UCS ドメインを管理するように Cisco UCS Central を設定できます。

Cisco UCS Central が Cisco UCS ドメインを管理できるようにするためには、そのドメインを登録する必要があります。登録するときに、どのタイプのポリシーおよびその他の設定（バックアップおよびファームウェアなど）を Cisco UCS Central が管理するか、Cisco UCS Manager が管理するかを選択する必要があります。すべての登録された Cisco UCS ドメインの同じタイプのポリシーおよび設定を Cisco UCS Central が管理するか、または登録された各 Cisco UCS ドメインの異なる設定を管理するようにできます。

Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録する前に、次の作業を行います。

- Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central が確実に同期するように、これらの両方に NTP サーバおよび正しいタイムゾーンを設定します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の時刻と日付が同期していない場合は、登録が失敗する可能性があります。
- ホスト名または IP アドレスの取得：Cisco UCS Central
- Cisco UCS Central を導入した際に設定した共有秘密の取得



(注) Cisco UCS Central に登録されているドメイン内の Cisco UCS Manager で使用されている IP アドレスは、変更または交換できません。その IP アドレスを変更または交換する必要がある場合は、最初に Cisco UCS Central からドメインを登録解除する必要があります。IP アドレスを変更または交換後、Cisco UCS ドメインを登録できます。

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間でのポリシー解決

Cisco UCS Central に登録する各 Cisco UCS ドメインについて、特定のポリシーおよび設定を管理するアプリケーションを選択できます。このポリシーの解決は、同じ Cisco UCS Central に登録するすべての Cisco UCS ドメインで同じである必要はありません。

これらのポリシーおよび設定を解決するには、次のオプションがあります。

- [Local] : Cisco UCS Manager によりポリシーまたは設定が決定され、管理されます。
- [Global] : Cisco UCS Central によりポリシーまたは設定が決定され、管理されます。

次の表に、Cisco UCS Manager または Cisco UCS Central のいずれかで管理するように選択できるポリシーと設定のリストを示します。

名前	説明
[Infrastructure & Catalog Firmware]	機能カタログおよびインフラストラクチャのファームウェアポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central からのものかどうかを決定します。
[Time Zone Management]	タイムゾーンおよび NTP サーバ設定がローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central からのものかどうかを決定します。
[Communication Services]	HTTP、CIM XML、Telnet、SNMP、Web セッション制限および管理インターフェイスモニタリングポリシー設定がローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。

名前	説明
[Global Fault Policy]	グローバルな障害ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[User Management]	認証およびネイティブドメイン、LDAP、RADIUS、TACACS+、トラストポイント、ロケールおよびユーザロールがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[DNS Management]	DNS サーバがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[Backup & Export Policies]	完全な状態のバックアップポリシーおよびすべての設定のエクスポートポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[Monitoring]	Call Home、syslog、および TFTP Core Exporter の設定がローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[SEL Policy]	SEL ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[Power Allocation Policy]	グローバルな電力割り当てポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
[Power Policy]	電力ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。

Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録



(注) Cisco UCS Central に登録されているドメイン内の Cisco UCS Manager で使用されている IP アドレスは、変更または交換できません。その IP アドレスを変更または交換する必要がある場合は、最初に Cisco UCS Central からドメインを登録解除する必要があります。IP アドレスを変更または交換後、Cisco UCS ドメインを登録できます。

はじめる前に

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central が確実に同期するように、これらの両方に NTP サーバおよび正しいタイムゾーンを設定します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の時刻と日付が同期していない場合は、登録が失敗する可能性があります。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
- ステップ 3** [UCS Central] ノードをクリックします。
- ステップ 4** [Work] ペインの [UCS Central] タブをクリックします。
- ステップ 5** [Actions] 領域で、[Register With UCS Central] をクリックします。
- ステップ 6** [Register with UCS Central] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
- a) 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Hostname/IP Address] フィールド	Cisco UCS Central が導入される仮想マシンのホスト名または IP アドレス。 (注) IP アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合、または DNS 管理が [local] に管理設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [global] に管理設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。
[Shared Secret] フィールド	Cisco UCS Central の導入時に設定された共有秘密（またはパスワード）。

- b) [Policy Resolution Control] 領域で、フィールドごとに、次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。
- [Local] : Cisco UCS Manager によりポリシーまたは設定が決定され、管理されます。
 - [Global] : Cisco UCS Central によりポリシーまたは設定が決定され、管理されます。
- c) [OK] をクリックします。
-

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシーの解決の変更

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
- ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインの [UCS Central] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Policy Resolution Control] 領域で、フィールドごとに、次のいずれかのオプションボタンをクリックします。
- [Local] : Cisco UCS Manager によりポリシーまたは設定が決定され、管理されます。
 - [Global] : Cisco UCS Central によりポリシーまたは設定が決定され、管理されます。
- ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。
-

Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録解除すると、Cisco UCS Manager はグローバルポリシーの更新を受信しなくなります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
- ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインの [UCS Central] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Unregister From UCS Central] をクリックします。
- ステップ 6 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 7 [OK] をクリックします。
-

Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録



(注) Cisco UCS Central に登録されているドメイン内の Cisco UCS Manager で使用されている IP アドレスは、変更または交換できません。その IP アドレスを変更または交換する必要がある場合は、最初に Cisco UCS Central からドメインを登録解除する必要があります。IP アドレスを変更または交換後、Cisco UCS ドメインを登録できます。

はじめる前に

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central が確実に同期するように、これらの両方に NTP サーバおよび正しいタイムゾーンを設定します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の時刻と日付が同期していない場合は、登録が失敗する可能性があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # create control-ep policy ucs-central	<p>Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために必要なポリシーを作成します。</p> <p><i>ucs-central</i> は Cisco UCS Central が導入される仮想マシンのホスト名または IP アドレス。 の場合があります</p> <p>(注) IP アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合、または DNS 管理が [local] に管理設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [global] に管理設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
ステップ 3	登録の共有秘密 : <i>shared-secret</i>	Cisco UCS Central の導入時に設定された共有秘密 (またはパスワード) 。を入力します
ステップ 4	UCS-A/system/control-ep # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例では、Cisco UCS ドメインを IP アドレス 209.165.200.233 の Cisco UCS Central システムに登録し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # create control-ep policy 209.165.200.233
Shared Secret for Registration: S3cretW0rd!
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

次の作業

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間でポリシーの解決を設定します。

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシーの解決の設定

はじめる前に

ポリシーの解決を設定する前に、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # scope control-ep policy	control-ep ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/system/control-ep # set backup-policy-ctrl source {local global}	完全な状態のバックアップ ポリシーおよびすべての設定のエクスポート ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 4	UCS-A/system/control-ep # set communication-policy-ctrl source {local global}	HTTP、CIMXML、Telnet、SNMP、Webセッション制限および管理インターフェイス モニタリングポリシー設定がローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 5	UCS-A/system/control-ep # set datetime-policy-ctrl source {local global}	タイムゾーンおよびNTPサーバ設定がローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central からのものかどうかを決定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A/system/control-ep # set dns-policy-ctrl source {local global}	DNS サーバがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 7	UCS-A/system/control-ep # set fault-policy-ctrl source {local global}	グローバルな障害ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 8	UCS-A/system/control-ep # set infra-pack-ctrl source {local global}	機能カタログおよびインフラストラクチャのファームウェアポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central からのものかどうかを決定します。
ステップ 9	UCS-A/system/control-ep # set mep-policy-ctrl source {local global}	SEL ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 10	UCS-A/system/control-ep # set monitoring-policy-ctrl source {local global}	Call Home、syslog、および TFTP Core Exporter の設定がローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 11	UCS-A/system/control-ep # set powermgmt-policy-ctrl source {local global}	グローバルな電力割り当てポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 12	UCS-A/system/control-ep # set psu-policy-ctrl source {local global}	電力ポリシーがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 13	UCS-A/system/control-ep # set security-policy-ctrl source {local global}	認証およびネイティブドメイン、LDAP、RADIUS、TACACS+、トラストポイント、ローカルおよびユーザロールがローカルで定義されたものか、または Cisco UCS Central で定義されたものかどうかを決定します。
ステップ 14	UCS-A/system/control-ep # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、Cisco UCS Central に登録されている Cisco UCS ドメインにポリシーの解決を設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope control-ep policy
UCS-A /system/control-ep* # set backup-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set communication-policy-ctrl source local
```

```

UCS-A /system/control-ep* # set datetime-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set dns-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set fault-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set infra-pack-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set mep-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set monitoring-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set powermgmt-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set psu-policy-ctrl source local
UCS-A /system/control-ep* # set security-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #

```

Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録解除すると、Cisco UCS Manager はグローバル ポリシーの更新を受信しなくなります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # delete control-ep policy	ポリシーを削除し、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録解除します。
ステップ 3	UCS-A/system # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```

UCS-A# scope system
UCS-A /system # delete control-ep policy
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #

```

